

ライオン歯磨試験室

定價
 三冊共拾貳圓
 郵費代價另計
 發行所
 三井物產株式會社
 東京市丸の内區
 本町二丁目
 電話
 東京市丸の内區
 本町二丁目
 電話
 東京市丸の内區
 本町二丁目
 電話

其の畧歴と有名なる人口論

中樞院に於ける總督觀

野田副總裁談

も、おつぎ察したはい經驗はんより言ふも、

して人言ひとごひを容れざるとは信しんぜない

又或人は非立憲だと言ふ、我れ

憲を標準とするのか、英とか米と

獨とか、西洋諸國を標準とすれば

れ知らず、我邦の憲法を土臺とし、
其憲法に基いた法規を據つて政治

するものを立憲的りつけんてきと謂いはゞ、我幸

總督の如きは正直に法規を守り、

ね、又世に云上寵商の如きも何處

あるか。我輩未だ之を知らぬ。

正直正路に法規を守つて居るで
ないか。我輩より言へば、寧ろ立憲

の鼻口はゴツッワイン等の樂觀説を論破しようといふ動機に起つたのである。ゴッドウィンは人間の完全性を信じ人間問題に關して次の如き樂觀説を述べた。

人間の理性は結局感情に打克つべきものであつて、理性發達の極に達する時は人の行為は全然理性のみに支配せられ性慾は適度に制限せられて人口の過多を來すことなく、財は平等に分配せられて世に幸福の路なきに至るであらう。而も感情を抑へて慾望満足に必要なもののみに限るに於て勞働時間は大に縮減せられて精神的上を司るの性格を得致し最幸福なる其社會組織に出し得るであらう。既にゴッドウィンは理性勝利感の此兆を信じたのである。然るにマルサスは之と反對で人口問題の將來に關しては悲觀説を抱いた。彼れは思つた、今日社會に貧民多量な悲惨なる社會的現象の増起し來るは實に此世の自然の成行を稱すべきものである。食料の分配不均等、人口増加の力に勝つて居ないこと、此世に於ける可なりさ自然天賦の法則の結果に外ならぬ。

△朝鮮米倉庫難 大阪商船會社にては昨年十二月末船舶不足の結果東北航路の船舶一節停航したるに連帶的に盤踞を圖したるが從來停航の際もなし朝鮮米は之れと同時に大量運送され一月以降の大阪入港の激増したるも一時十四萬噸以上の移入にて繁港の各倉庫は勿論各庫に溢餘なす程は今尚ほ盛岡港に繁港に停泊し居る有様にて朝鮮貿易組合にては大に狼狽し善後策を講じつつあるが尙ほ三月に至りなば朝鮮米十五六萬噸と臺灣稻精廿萬俵積著の條にて各倉庫其餘地なきに恒憂を虞じ居れる過ぎるものと云ひたいのである。

□我輩は立憲政體を希望するには血を流したものである 故に立憲には非の字を冠することは大に忌むものである、却つて清規の如きはもちつと寛大によつて貰ふことを希望するものである。尤も内地と殖民地とは自から相違のあるのは勿論である。日朝關係は官督民率と云ふやうに決して之れは人の言ふやうには思はね、但に朝から晩まで正式であるから官督民率と言ふが時々に非公式の事を希望すると共に、公式の事は一層嚴重に行つて貰ひたいと思ふ、我輩は一吋斷米を取つて居るが歐米に於ては正式の事と云へば日本より榮光である。彼には非公式の事が半ばあるから、それで適當で居れて居ると思ふ。

△鮮銀の増貨說 朝鮮銀行は滿洲地方に露債を企て瀋陽其他諸國方面にも支店を設置する等鋭意業務の擴張に努力し居れるが一層露債を計る爲め同紙資本金千萬圓は全部拂込済になり居るを幸ひ倍額増資を行ふとの詔駁に備へたる。

△バルブの下落 一時一貫度十七八錢を唱へつゝありし紙料バルブは十四錢現常に下落來れり是れ高値と需要家の過ぎると輸入廠の懸先見え來りしによるたらん。

△露國證券不況 大阪に於ける露國證券の賣行は頗る不活潑にて凡日一口五十萬圓三十四銀行に市中相場ありたる位に止。其他は微々たる申込を受け居れるが、露國貯蓄銀行の責任額を充當するに至るならんか。

△亞鉛礦領經營 大坂亞鉛礦業は露國濱州に於ける濱州山に著手し之が研究を神戶理學博士に屬託せしに既に調査終了歸朝したるが近く同博士の詳細なる報告を侯つて之が經濟の歩を進むと云ふ候べし。

(四點)

わが方いたられために職業のあるかなしさを感じにける ひろし

二月名の山の暮き木々はみななづかに芽ふきの待つこゝろ 南花

我が胸の若葉の蔭にいちはやく君はうなひし小鳥なりけり 荷水

君に逢はば先づ何言を語りなんかく思ひつゝ 今日も惹かれる 白露

やめし清飲かなと告げ來それとなく戀抱かす惜ぐやあな君 葉子

うまさしき人にはあれど日々來るそのならはしに今日も待たる 白愁

人はみないと價なきにちひを已れに認め生きてあるもの 孝清

つむくれを食ひてもまたに愛を給ふる土與て君なかりそ 同人

不平、不満、虐けられし若人の心にく荒野をかき廻ぐるたり 玉村

あかつきは牛にも劣る臭いわがキリストもかいりもしのか 自らを顧しとすればさらに増し重き靈のいやまさりくる 境勇

世に背き人に背きし若子の悲しや林はまた泣くる 青丘

さやきやさやき、醵暗けば夕されば旅の心は酒ばかりやます 幻花

油じみし紙下をはく朝なき我が下宿生活の淋しみれけり 義長

今日は火鉢にはよ秋をつく 同人

醒れては我を叱れど相見ては我れに迷へり 驅きのかな 鶴揚

はつきりと我れに向ひて我生きむ 鈴りに我のさし隠れてき 健兒

物品購買公告
 一、浦砂利 貳拾壹坪貳貳式
 此入札保證金各目見積金高ノ百分
 有入札ニ附ス
 供納請入札希望ノ者ハ本府庶務係ニ
 就キ入札心得書契約書並設計書
 仕繕書等熟覽ノ上二月十四日正午
 十二時限リ同庶務係ニ入札スヘシ
 即時開札ス
 本契約ハ朝鮮總督府尹金谷充擔當ス
 二月十五日
 大正五年二月十四日
 警務總監部

購買入札
 一、奉統ノ物品
 右購買入札希望ノ者ハ本日以降ノ
 朝鮮總督府官報ヲ見ハ
 大正五年二月十四日
 警務總監部

木材業者 諸君ニ告ク
 一、二月一日附廣告ノ廠材規定寸法中左記追加ス
 挽材 三寸ニ一寸五分角
 尙挽材ノ内一割減ニ販賣スル規定寸法以外ノモノハ並上以上ニ限ル
 朝鮮新義州
 大正五年二月六日
 朝鮮總督府營林廠

大正五年國民年鑑
 四六版壹千頁 並製五十錢 上製壹圓 郵稅各八錢(民友社發行)
 紙價の暴騰は印刷料の値上げとなり、遂に出版界は既刊書籍の二割増しを
 決議せりとされ、國民年鑑は依然として壹千頁五十錢の安價を支持せんことを
 決す。抑も本書の各社に歡迎せらるゝ主なる理由は、其の實益無比無盡蔵
 なること、定價の至廉他に匹儔を見ざる點にあり。今や出版界は紙價の暴騰
 此の恐慌に影響さるゝことなく、普く各社會人士の註文に應ずべし。蓋し
 印刷料の値上げを以て大恐慌に襲はれんとす。されど國民年鑑は舊く
 本社が本書各種の原料を事前に仕入し替けるが爲に外ならず。今後若し
 本社貯蔵の各種原料盡くるが如きことあらば、或は値上斷行の已むなきに
 至るやも計られず。値上の厄に逢はざる内至急御註文あらんことを切望す。

取次所 京城太平通一丁目 京城日報社代理部
 振替京城三〇〇番

二月十日より
雛人形陳列會
 昔床しき源氏椿、紫宸殿、を始め親
 王宮女五人、雖什丁雪洞其他附屬
 品一切花やかに陳列御來觀待上候
 二月十五日より
新柄帶側陳列會
 春先きの御召物に調和よき流行品
 恰も春の花の如く千紫萬紅取揃へ
 御清覽に供し候

三越呉服店 京本町

物品購買公告
 一、浦砂利 貳拾壹坪貳貳式
 此入札保證金各目見積金高ノ百分
 有入札ニ附ス
 供納請入札希望ノ者ハ本府庶務係ニ
 就キ入札心得書契約書並設計書
 仕繕書等熟覽ノ上二月十四日正午
 十二時限リ同庶務係ニ入札スヘシ
 即時開札ス
 本契約ハ朝鮮總督府尹金谷充擔當ス
 二月十五日
 大正五年二月十四日
 警務總監部

購買入札
 一、奉統ノ物品
 右購買入札希望ノ者ハ本日以降ノ
 朝鮮總督府官報ヲ見ハ
 大正五年二月十四日
 警務總監部

木材業者 諸君ニ告ク
 一、二月一日附廣告ノ廠材規定寸法中左記追加ス
 挽材 三寸ニ一寸五分角
 尙挽材ノ内一割減ニ販賣スル規定寸法以外ノモノハ並上以上ニ限ル
 朝鮮新義州
 大正五年二月六日
 朝鮮總督府營林廠

大正五年國民年鑑

畫中止

● 服警務部長談

分本邦を出發し軍威に奮發を了へ途
三箇所を觀察し午後三時半頃
如く其の喜悅滿腔に當り

を引取らしめ又監事をして必要な
地を返
●同行保護を與ふ なるもの
し被保護者中獨立して生活をして爲し
べしと認めたるものに就いては及
限り便宜を與へ未だ獨立生活計を爲
に至らざるも適當なる監督又は引
入るる時は之を保護委託す然れど
注意 加ひつゝあるが邱安線何
希し發展
能なりと(元出)
●野田副總裁出張 野田東拓
副總裁は南緯地方觀察の爲め十四日
一番列車にて出發せり
人 事 消 息
●山本野村氏盛領(盛領夫人) 十三日夜入京
本旅館 投宿
●トレスヘル氏(鐵山遊) 十三日夜入京朝鮮
ホテルへ
を奏せりと見え 諸務總會 實
の同工務總會四員より可受くる事と
も知れぬが其れでは遊説の必要もな
き相なるものなれば下院では既に政府案
を提出して居るらしいからガランソン
相繼ぎに立つて大總領に質問をする
と其の返答がガランソンになつて滑
えて仕舞つたから立腹したとか云ふ
語た「愈々色々色々」いつて御注文
あれば日本の範圍の紫蘇の葉を少々
輸出して上げて可い

内外各種ブラシ製造原毛販賣
 外科 内科
 花柳病皮膚病
 島崎病院
 京城壽町(本町二丁目入る)
 △入院臨時△普通病室隔離病室設備△診察夜九時迄△電話二七三六番
 患地に立廻る革命黨員の取締に關する呈し殊に大正四年は勅令の次第に依りて作業の困難を感ぜると資本の過剰とにより難有の不安を來し採取

試験飛行を行ふ一時三十六分第二十六號機は伊庭

「命を摔けても憚りて
見るといつた様なものがあつたのは彼
多分のボツケットマネーを撒くのも
も因るけれども、部下の要請とい
事を忘れぬからだ。即ち恩威併
の要諦を呑込んでゐるのである。」
ところが彼には一つ甚だ

しく悪い癖がある、こゝもその國が然らしむる所ではあるが、自分が成功するにこれまで分のために忠實に働いたところの要な部々に、自己に燃じてしまふその理由は自分の亡きものは子孫自分の遺業を繼ぐ事が出来ず、その部下のために取つて

軍隊に叛亂を起させ、
が北京を離るれば斯くの如き騷擾

袁總統の胸の中
我輩が揣摩すれば

れたけれども暗殺といふ説が多い
である。段祺瑞なども袁と
關係もあり可なり兵力を握
てゐるものだが南方に
逃げたといふ風評もある。段

瑞と云へば武刀では殆ど第一の人者
目下衆に代るべき人眼は彼の外は
いのだ。其の邊が又表をして例の
始を起さしめた所以なのである。
うい風渡であり此の皷點が漸く一
に知れ渡つた如く容易に

從來の如く容易に

部下も出来ず、今日では大分人望
落ちた様である。裏にして此の弊

ありそれが知れて来た以上恐ろ
後まで彼の望み通りになる事は到
出来なまいと思ふつゝ

●竹島沖に座礁せる
直江津丸

多より石炭を積み高島に航行中十
日本郵船石炭丸、青島直江津丸は
巴組、席船直江津丸(七、一六噸)は

丸鬻會員の意氣込 白水奥の関

[illegible][illegible]

金瓶梅、和風之調撫
の力。わが國、前節
（）は、和風、有るに
三番、一、二、三、
月、廿九、師匠、在、
大誠、其、花、芳、美、
丸、に、り、大誠、其、

露國の作を急

露國の信管を引受は
作所では昨今既に或

ため新に購入した。特に海盤、クレーツ

細細君連中の間にも慈善會の
 直しの下相談があつた事は既記の通
 りだが今年九月會といふを作り愈々
 大なるを演り、その揚り高のすべて
 来る十九、二十日の兩日、劇場で素
 を自耳義に贈る事となつた、狂言役

花 はな ここ
 ベツクは、ロウ

鶴等は左記の通りに決定、今が稽古
 の最中、
 由多少心得たのもあり、カラ
 しいのもあり、其處が整人芝居の町
 といふ、十七日までは平稽古を終り
 泉城にある衣裳では下さないであ
 り、つて祇園に注文した衣裳が著き次第
 兩立にかかり、續いて總溪へにかゝ
 らうといふ勢ひ、阪東小玉といふが

附て盛にやつてる、十三日の午後
白水の興の間の穢言垢を覗
 いてみると、なるわねるわ成田屋に
 狂狷屋、成田屋に播磨屋なんぞ妙な
 大名題が齒噛みをしたり眼を納たり
 大變な騒だ、喜久家兎血右衛門の演
 物とさよ上様玉五三の途中が姫まつ
 たところ、よく腰の口上から萩の方の
 一ル、ミリング等が
 臺程集まつた亞木利
 イスや自動車の刻
 するさうである、四
 八百人位であるが、
 二千五百人を便役

してある、之等は却つて勞働經濟に
なる留意にちつど、第一回の調査に
々散

入らねば氣
 臭いものだ
 久家鬼
 分は
 受け山形に
 受ける
 氣の入つ
 立派なもの
 さうだ(大橋)

二月下旬引渡の十五萬圓を率先とし
 して三月に十八萬圓、四月に二十萬
 圓、五月までに百二十萬圓を完成に
 する筈であるが尙ほ殘額二百八十萬
 圓の收受交渉があるが原料騰貴の今
 日契約には多少手間取るかも知れぬ

形か
 疑は
 疑は
 疑は

[illegible][illegible]

で
おちく
のよ可なり
貧乏な
を「あ
やした
車曹
日で

こころ（六）ベクタス、レクタス
むかしき名よと讀みあし君の如はも花の色に似る

に見
も二
のろ
もわ
べん
くさ
り

本品は約六百
 に注文した
 四月頃には現
 在
 下月頃には
 目下其れ

殿だ「然うであります」と真直ぐに
 仲はした脚を胡座に代へて腰むさ
 う眼をしはたい、出て出かつた

欠仲を噛み殺し

なのは三つ星の上等兵君だ。此處は
 弱き重裝束の牧畜内、狼狽さへて

源根

時四
 七

聴耳
 殿か
 いて
 と附
 バン

便宜上、舎屋に還

外套を引抜つたまゝ、
 しも轉じた様
 であるところは寒天の裏合
 い夢を精ぶ露露と更へ擇ぶ
 尤も便宜上部屋に退
 實際は露露といふ事になつ
 であつた。室内には油煙で

朝鮮
 新製

弊社は衛生上純潔
 特別に衛生を除く
 煙草を製造し
 には却て御座る
 太巻一本の煙草上相

ンテラの標な薄暗い洋燈が
 りを一杯に投げてゐる。闇。
 兵士の銃が驚然と並んでゐ
 の軍曹殿の言葉は夕方、
 いな米の飯を喫へて
 腹から来る輕
 くなった肚腰をヤンと藥
 (な)と結合部を指頭が
 十一時半に出發、夜行軍

量には多
 火鉢の中
 其三分の一も只
 中から細
 中泰だ
 のではありませ
 生の上に
 御徳用の
 添て申上ますは
 工費六分五厘の割
 造費の減るもの

原力面に向ふよであつたのち
 て被せられた言葉だつた。
 八時頃までは眠られぬまゝ
 で行つて来た兵士の間
 苦しい顔も出た、演習中の
 語りも出た

聖の甲乙の贖
 かに歌こそ歌はないが、神
 て、平素程の臨し吃言も


金五銭に
 印造に二百圓限り
 前九時より午後五
 景品を養上げます

付 口
 考

言はれてみると

何にも暢氣相
氣樂さうでもある。中に
しかない毛布を引張合つて
れば足を乗せ合つてゐるもの
その親しみの深かさうな。


口 付 細



獄で佛を嬉し
 パンの到来は
 して八時過ぎまで
 軍の饑餓が猛烈になりかけ
 令があるまで勝手に食つち
 が「ど」小夜食の堅パンが
 渡された。無聊に苦しむ矢
 ち「食つちや可かん」といふ命
 もおちらふ、怒めしきうに

景品
 一等
 二等
 三等
 四等
 五等
 六等
 七等

巻



んでトロ／＼と眼りに就く
 ら聞える鼎の切れ／＼に煙
 糲の香、中には「中隊長
 と少佐、腹か知りん」などと
 てる者もあつた。

川の出火 十三日午後九
 分、分門川京町一丁目惣真商全
 出火、折橋の西風に煽られ
 鮮人家屋二戸を焼き十時

右の
 外から
 御留來を願ひ
 京城長公
 (朝鮮

目
 八等
 九等
 十等
 等

卷之六 造すること

草株式會社
叩大賣出
見地か中巻細巻の烟草を製
總て造すること
効能はありますが餘り召し上り過ぎ
ます
目は約二分ありますから一度の召上

本巻の製造費は賸原料三分五厘諸材料
 依地方を細く致したるに左のみ製
 三十二本入と定價
 上れば自然養生にも御儉約にもな
 だからして一本半
 中巻細巻は御養
 御經濟の上にも

[illegible]

參照前次入

彈草	函壹	等提袋	婦人鏡臺	時計	簾箭	婦人持金側
入一個	宛廿五	宛十五	宛十五	掛宛五	坐宛二	側宛二
本	本	本	本	本	本	本


越前製鉛筆 一本宛 六十八本
御禮用向四十人定 價五錢の中
巻口付煙草を發賣致し居ります
電話一八五七番

朝鮮煙草株式會社 新製品大賣出

中卷細巻の煙草を製するに際し、特別品の外は總て中卷細巻の煙草を製造したるものには、御生へ上り過ぎることに注意せられたる。

○煙草は衛生に相當の効能はありますが餘り召し上り過ぎると体に害になります。
○太巻一本の煙草の量目には約二分ありますが一度の召上り量は多過ぎます。太巻煙草が三分の一以上喫ひ残り火鉢の中に聚々として居りますのは論も證據でありまして其三分の一も只ではなく相當代價の掛て居る品でありますから中巻細巻を召上れば自然御養生にも御節約にもなります。

○中巻だからとて細巻だからとて太巻一本の代りに一本半なり二本なりを召上る處で中巻細巻は御養生の上にも御經濟の上にも御德用の品であらう。



金五錢にて三十二本入定価

工賃六分五厘の割當故推方を細く致したたから左のみ製造せられ減るものには何れも三十二本入定価に作り直され夫を大發賣にてあります。

前送にて二百個限り空袋三十個前持参の方へは何日にても午前九時より午後五時迄御來車の上議を御抽下さるれば直に景品を奉上げます。

